

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律に興味を持ち、自らの職業が法律とどのように関わっているか、重要性を知ってもらう。 そして国家試験科目である本科目で合格点が取れる十分な知識を習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	(1) )法制度の概要・法とは何か (2) 美容師免許の取得方法 (3) 勉強の仕方			プリント配布	
2	(1) 用語の定義 (2) 美容師免許制度			プリント配布	
3	(1) 美容師の守るべき義務 (2) 美容師に対する行政処分			プリント配布	
4	(1) 管理美容師 (2) 美容所の開設			プリント配布	
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 立入検査			プリント配布	
6	(1) 美容所以外の業務 (2) 行政処分・罰則			プリント配布	
7	行政機関・保健所・衛生行政			プリント配布	
8	関連法規・まとめ			プリント配布	
到達目標	様々な法令行為を理解する基礎作りを身につけ、美容師として必要な法律・制度の常識を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	関係法規・制度（日本理容美容教育センター） 美容司法関係法令集（日本理容美容教育センター）    プリント				

学科	美容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（公衆衛生・環境衛生）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	病気の原因を疫学的に理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	人と微生物の関係・人間の抵抗力など衛生管理の総論			テキストあり	
2	公衆衛生の歴史・各種保険を理解する				
3	死亡率（主要死因別死亡率・部位別癌死亡率など）・生活習慣病				
4	生活習慣病・前期小テスト				
5	環境衛生・空気と健康など理解する				
6	住居の衛生（採光・照明・暖房・冷房）				
7	上水道・廃棄物の各論				
8	衛生害虫に関して理解する・総まとめ				
到達目標	業を通して公衆衛生の維持と増進への責務の重要性を理解する 美容所における構造設備や衣服の衛生、環境保全対策を学び身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	病原菌の性質と感染経路を理解する・啓蒙活動の準備もする				
授業回	学習内容			備 考	
1	感染症の歴史を理解する			テキストあり	
2	感染症の分類（法律上・その他）を理解する				
3	微生物の大きさ・構造・増殖の仕方など理解する				
4	汚染・感染・発病の意義を覚え、免疫も理解す			小テストあり	
5	感染経路各論				
6	空気・飛沫を介して感染する感染症各論				
7	飲食物を介して感染する感染症各論				
8	血液を介して感染する感染症、その他の感染症、総まとめ				
到達目標	感染症の正しい知識と蔓延予防対策を学び、美容業における具体的な衛生処置法を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	消毒法と微生物の性質を知り、適切な消毒法を選択できるようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	殺菌・消毒・滅菌・防腐の定義を理解する			プリントあり	
2	美容師法施行規則抜粋を完全に理解する（特に消毒法）				
3	理学的・化学的消毒法分類・消毒に必要な条件を理解する				
4	理学的消毒法各論・小テストあり				
5	化学的消毒法各論（特に短所を覚える）				
6	化学的消毒法各論続き				
7	優れた消毒法の条件・濃度計算・消毒の実際を理解する				
8	衛生管理の実践例・総まとめ				
到達目標	美容業務の衛生性を担保するうえで重要な消毒の意義を理解し、器具の種類、材質、構造に応じた消毒方法を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	松戸		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	30
教育目標・ねらい	人体の解剖（特に胸部～頭部、顔にかけて）構造、仕組み、働きを理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容保健を学ぶ意図を知り、頭部顔部頸部の構成及び名称について学ぶ			プロジェクター	
2・3	骨の構造と働き、名称について学ぶ			プロジェクター	
4・5	筋の構造と働き、名称について学ぶ			プロジェクター	
5・6	神経の構成と人間の働き、感覚器との関連を学ぶ			プロジェクター	
7・8	感覚器系の種類と特徴及び疾患について学ぶ			プロジェクター	
9・10	血液、循環器の名称と働き、リンパの役割について学ぶ			プロジェクター	
11・12	呼吸器系の名称及び仕組み、疾患について学ぶ			プロジェクター	
13・14	消化器系の仕組みと名称役割を学ぶ			プロジェクター	
15	人体テキストの総まとめ、過去問題の学習及び回答			プロジェクター	
到達目標	人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業として、必要な人体構造の基本知識を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	宮原(秀)		
科目名	保健（皮膚科学）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ねらい	皮膚科学の基礎的知識の習得と疾患や手入れ法などを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章～第3章 皮膚全般 皮膚付属器官全般 皮膚循環器系と神経系 確認テスト			プリント	
2・3	第4章 1項 対外保護作用 ～1 1項 爪の働き 確認テスト				
4	第5章 1項 皮膚と全身状態 ～7項 皮膚付属機関のホルモン				
5	確認テスト 演習問題			プリント	
6	第5章 8項 皮膚の保護手入れ ～9項 毛の保護と手入れ				
7	第5章 10項 爪の保護と手入れ ～ 11項 子供のおしゃれによる皮膚トラブル				
8・9	第6章 1項 皮膚の異常と種類 ～ 2項 皮膚疾患の原因 確認テスト			プリント	
10・11	第6章 3項 皮膚疾患の治療法 ～ 4項皮膚炎と湿疹薬疹				
11・12	第6章 5項 口唇の疾患 ～ 12項 分泌異常による皮膚疾患				
13・14	第6章 13項 化膿菌による疾患 ～ 19項 皮膚の腫瘍				
15	確認テスト 演習問題			プリント	
到達目標	人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業として、必要な皮膚科学の基本知識を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	村松		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	ビューティークリエイターとして仕事をする上で必要な香粧品化学の基礎知識を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	香粧品化学第1章 ガイダンス・香粧品概論 基礎化学 1 物質の構成			プロジェクター・P C	
4～6	基礎化学 2 物質の構造 / 3 溶解とコロイド 4 イオンと水素イオン指数 5 物質の変化と化学反応 / 6 酸化・還元反応 7 タンパク質			プロジェクター・P C * 3回目分子模型	
7～9	香粧品化学第2章 香粧品用原料（水性原料/油性原料:油脂・ロウ/油性原料：炭化水素）			プロジェクター・P C	
10	前期復習/香粧品化学第2章 香粧品の対象となる人体各部の性状			プロジェクター・P C	
11～14	香粧品化学第2章 香粧品用原料（界面活性剤/高分子化合物・色材/香料・その他の成分）			プロジェクター・P C	
15～16	香粧品化学第3章 基礎香粧品(石けん・化粧水/クリーム・その他)			プロジェクター・P C	
17～18	香粧品化学第4章 メイクアップ用香粧品			プロジェクター・P C	
19	香粧品化学第5章 頭皮・毛髪用香粧品（シャンプー剤・リンス剤）			プロジェクター・P C	
20～21	香粧品化学第5章 頭皮・毛髪用香粧品（パーマ剤）			プロジェクター・P C	
22	香粧品化学第5章 頭皮・毛髪用香粧品(ヘアカラー剤・育毛剤)			プロジェクター・P C	
23	香粧品化学第6章 芳香製品と特殊香粧品			プロジェクター・P C	
到達目標	信頼できる仕事をするため、お客様に適切な香粧品の提案ができる知識の基礎を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	香粧品化学(日本理容美容教育センター) プリント				

学科	美容科	担当教員	星野		
科目名	文化論（美容文化論）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	5
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章：総論 第2章：日本の理容業・美容業の歴史				
2	第3章：ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ 近代（明治・大正・昭和20年まで）				
3	第3章：ファッション文化史（日本編） 現代Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
4	第4章：ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ、近世				
5	第4章：ファッション文化史（西洋編） 現代				
6	まとめ				
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を知り、美の成り立ちやあり方を理解する				
評価方法	期末筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）プリント				



学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論（絵画法とデッサン）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	デッサンを通して描画力、観察力、集中力を身につけ高める				
授業回	学習内容			備 考	
1	【デッサン入門1】 デッサンについての基礎的なレクチャー 道具の使い方 鉛筆を使った濃淡の出し方				
2	【デッサン入門2】 光を描く レクチャー 光と影について 模写と実物のデッサン				
3	【デッサン入門3】 形、空間を描く 立体について自分の周辺にある人や物の形を素早くとらえる				
4	【自画像1】 顔のパーツを描く 見慣れた自分の顔の目や唇などパーツをよく観察し 立体感や色味の濃淡等を捉える				
5	【自画像2】 頭部全体を描く 実物大の自画像をデッサン パーツ毎の特徴や配置、光や影を描画				
6	【ヘアデッサン画】 テーマに沿った作品制作				
到達目標	基礎的な道具や素材で、ヘアデッサンが描けるようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	経営者の考え方や果たす責任・役割を学び、働くうえで求められることを学ぶ 顧客を満足させるサービスを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1編 第1章「経営とは・経営者とは」 経営の定義、言葉の意味 第2章「理容美容業の経営について」				
2	第2編 第1章「人という資源 従業員としての視点」				
3	第2編 第2章「健康・安全な職場環境の実現」				
4	第2編 第3章「従業員という視点から」 社会人としての責任 社会保険 キャリアプラン				
5	第3編 第1章「サービスデザイン」 第2章「マーケティング」				
6	第3編 第3章「サービスにおける人の役割」 接客について				
7	第3編 第3章「サービスにおける人の役割」 接客におけるトラブルと対応				
8	確認テスト				
到達目標	店舗運営の基礎知識を学ぶことで、顧客を満足させるサービスを自ら考え、働くうえで求められる人材像に近づくことができる				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	運営管理（日本理容美容教育センター）      プリント				

学科	美容科	担当教員	阿見、高橋、中田、深井		
科目名	美容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1	序章 美容技術理論を 学ぶにあたって	(1) 美容理論と美容技術 (2) 美容技術における作業姿勢 (3) 美容技術に必要な人体各部の名称			
2	1章 美容用具	(1) 美容技術における用具 (2) 各用具の取り扱い方 (3) 授業における各用具の取り扱い方			
3	2章 シャンプーイン グ	(1) サイドシャンプー (2) バックシャンプー (3) ヘッドスパ			
4	3章 ヘアデザイン	(1) 美容とデザイン			
5	4章 ヘアカットイング	(1) シザーズとレザールの取り扱い方 (2) 正しい姿勢とブロッキング (3) 基礎理論とカット技法			
6	5章 パーマネント ウェーピング	(1) パーマネントウェーブの理論 (2) パーマ剤の分類と注意事項 (3) パーマネントウェーブ技術			
7	6章 ヘアセッティング	(1) オールウェーブの作り方 (2) 各種カール (3) アップスタイリング			
8	7章 ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーの種類と染毛のメカニズム (2) 色の基本とアンダートーン、パッチテスト (3) 酸化染毛剤、酸性染毛料の技術手順			
9	学期末試験	前期末学科試験			
10	8章 エステティック	(1) エステティック概論 (2) フェイシャルケア技術 (3) ボディケア技術			
11	9章 ネイル技術	(1) ネイル技術概論 (2) ネイルケア (3) アーティフィシャルネイル			
12	10章 メイクアップ	(1) メイクアップ概論 (2) 色彩と皮膚、道具について (3) メイク技術			

授業時間数	学習内容		備 考
13	11章 日本髪	(1) 日本髪種類と特徴 (2) 日本髪の装飾品と結髪道具 (3) 日本髪の結髪技術と手入れとかつら	
14	毛髪化学	(1) 毛髪の基本 (2) 薬剤の基礎知識 (3) 毛髪の構造	
15	学期末試験	後期期末学科試験	
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「美容技術理論1・2」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	美容科		担当教員	阿見、高橋、中田、深井		
科目名	美容実習		学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	600
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。					
授業回	学習内容				備 考	
1～3	基礎トレーニング	美容技術の基礎として、正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を 技術理論の教科書に沿って学び、美容師としての基礎的知識技能の習得。			10時間	
4～8	ブロッキング	カッティングやワインディングなどの施術を正確に容易にするために、正しいスライスで毛髪を分け、頭部をいくつかに区分するブロッキング技術を習得する。			20	
9～13	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論と技術を習得する。			24	
14～22	セიმレイヤー	セიმレイヤーカットの特長である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられることが出来るようになる為に、ヘアカッティング理論と技術を習得する。			40	
23～40	グラデーションカット	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類をならびに縦スライスの取り方を学ぶことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて、使い分けらるよう理論及び技術を習得する。			50	
41～57	ワインディング (オールパーパス)	パーマネントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する。			90	
58～72	サイドシャンプー	サイドシャンプーを通じて、技術姿勢やお客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			70	
73～115	オールウエーブ セッティング	オールウエーブセッティング技術に必要な理論ならびにオールウエーブセッティング技術（フィンガーウエーブ、ピンカール）を習得する。			80	
116～121	ネイル	ネイリスト技能検定試験3級同等の、ネイルケア・カラーリング、ネイル理論・技術の習得。			24	
122～130	メイク	メイクによってお客様の美しさをより引き出すために、骨格や肌の色、バランスに合わせたナチュラルメイクが表現できるよう、フェイスプロポーション・ベースメイク・ポイントメイクの技術を習得する。			40	
131～145	セット	セットに必要な美しいフォルムバランスや、毛流れ、面の艶を表現できるようになるため、仕込み(事前準備)やスタイリング剤の種類・量、多彩なコーム・ブラシによるセットの基礎技術を習得する。			74	
146～150	カラーリング	染毛する毛髪の長さや部位に合わせた実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。			18	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。					
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない					
テキスト	「理容技術理論 1・2」「技術テキスト」					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う					

学科	美容科	担当教員	齋藤		
科目名	芸術・ファッション（美容色彩学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	色の違いを知る・色を考える・美容と色彩の関係を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容師と色の関係				
2・3	ウィッグ塗布練習グレイヘア根元塗り（トレーニングクリーム）				
4・5	ウィッグ塗布練習毛先塗り（トレーニングクリーム）				
6・7	ウィッグ塗布練習マニキュア塗りゼロテク(トレーニングクリーム)				
8・9	ホイルワークトレーニング（トレーニングクリーム）				
10	PCCS色相環(パステルを使用した色相環作り)				
11	PCCSトーン(パステルを使用したトーン表作り)				
12	マンセル色相環と補色について				
13	光源の見え方について				
14	色感覚とイメージについて				
15	パーソナルカラー				
到達目標	美容師に必要な色彩・カラー知識・技術の習得				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術(話し方)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人として必要なコミュニケーションツールである、言葉づかい、電話応対など表現のスキルを上げる				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	・社会人としての心構え・言葉づかいの基本			ガイダンスを含む	
3・4・5	・好感の持たれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の復習）				
6・7	・電話応対（マナーと配慮するポイント）				
8・9	・電話の受け方（さまざまな場面での受け方応対）			マニュアル作り	
10・11	・電話の取り次ぎ（表現や応対の仕方の練習）			〃	
12・13	・電話のかけ方（さまざまな場面でのかけ方応対）			〃	
14・15	・話し方論まとめ・練習問題と一般常識（社会保険と税金）				
到達目標	社会的・職業的にも経済的にも自立社会人としてのスキルを身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト（ワークブック）・ ビジネス能力検定3級テキスト				

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術(国語と文章)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	会社の組織や役職、社内・社外文書やメールを通してビジネスの実務を身につける。ビジネスに関連する用語や時事問題など、新聞記事を活用して社会知識を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ PCの活用・組織図作り（文書の流れの理解促進）				
2	・ ビジネス文書の概要を知る・受発信の流れと表記法				
3	・ 文書の種類・社内外文書、帳票、稟議書、議事録など				
4	・ 社内外文書の相違点・様式の説明				
5	・ 文書構成のまとめ・社交文書の書き方				
6	・ グラフの種類と作成ポイント・メール作成の注意点				
7	・ 新聞記事の読み方・ビジネスで使用頻度の高い漢字				
8	・ 直近の過去問題を解く				
到達目標	社会人としてのスキルを身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト（ワークブック）・ ビジネス能力検定3級テキスト				



学科	美容科	担当教員	菅野		
科目名	表現技術(英会話)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンのシチュエーションで、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる。 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容				備 考
1	<b>Warm Up - 5minutes,</b> <b>Unit 1 - Dates and Times</b> 基本的な挨拶、自己紹介、時間、曜日、日付の 会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	<b>Warm Up - 5minutes,</b> <b>Unit 2 - Greeting a client</b> 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	<b>Warm Up - 5minutes,</b> <b>Unit 4 - Chatting with a client</b> 出身地、天気、趣味等のやりとり <b>Unit 5 - Shampooing</b> シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	<b>Warm Up - 5minutes,</b> <b>Unit 6 - Counselling</b> 頭部のボキャブラリ ・ お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 6				
5	<b>Warm Up - 5minutes,</b> <b>Unit 7 - Cutting</b> 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	English for Beauty Salons				

学科	美容科		担当教員	阿見、高橋、中田、深井	
科目名	ビジネスマインド		学 年	1	実施時期 前期
授業形態	講義・演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15
教育目標 ・ねらい	個々の学生のキャリアプランを明確化するため、業界人並びに卒業生と連携を図りつつ授業を行う。 授業の教育目標は、職業人に求められる「社会人基礎力」を構成する3つの能力（前に踏み出す力、チー ムで働く力、考え抜く力）の習得・向上である。				
授業回	学習内容				備 考
1・2	ビジネスマインド① 挨拶・基本動作・ 身だしなみ	挨拶の意味、お辞儀の角度、おしゃれと身だしなみの違いを 学ぶことで、社会人としての基礎的な立ち居振る舞いを習得 する。			
3・4	ビジネスマインド② 表情・態度	対人とのコミュニケーションの中で、非言語コミュニケー ションが、いかに重要な要素であるかを学び、職業人として の、好感の持てる立ち居振る舞いを習得する。			
5～8	セルフマネジメント ①	夢や目標を叶えるために必要なセルフマネジメント能力とは 何かを学び、今後の学校生活の修学目標・目的意識を明確に する。			
到達目標	職業人として求められている資質・能力を身に付けるために ・問題解決に向け、自律的に行動できる。 ・問題を見出して解決方法を探すことができる。 ・得られた情報を分かりやすく発信・伝達することができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価 対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科		担当教員	阿見、高橋、中井、深井	
科目名	ビジネスマインド		学 年	1	実施時期 後期
授業形態	講義・演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15
教育目標 ・ねらい	個々の学生のキャリアプランを明確化するため、業界人並びに卒業生と連携を図りつつ授業を行う。 授業の教育目標は、目標を達成するために対話を通じて他者と協働し、『問題解決のために論理的に考える力』と『PDCAサイクルを回す思考力と行動力』の習得・向上である。				
授業回	学習内容				備 考
1～3	セルフブランディング ①	市場価値の高い人材になるため、常に成果を出すためのアイスパークを学び、自分がなすべきことを適切に判断することができる。			
4・5	セルフブランディング ②	困難な障害が生じたとしても、乗り越えるための方法や考え方、粘り強く実行することを一流業界人から学ぶことで自身の経験に活かすことができる。			
6	セルフマネジメント ②	様々な状況や場面を踏まえて、目的と優先順位とを明確にし、最も大切なことに時間をかけて集中できるよう時間管理術を習得する。			
7	逆算思考①	人生の目的・目標を明確にし、ありたい姿から今現在まで、逆算思考をすることで、何をすべきなのかという『実行目標』を明確にすることができる。			
8	逆算思考②	同上			
到達目標	目標達成のために ・対話を通じて他者と協働することができる。 ・粘り強く取り組み続けることができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得				
授業回	学習内容				備 考
1・2	毛髪化学 1	①毛髪と構造の働き ②タンパク質について ③キューティクルの構造と役割 ④細胞膜複合体の構造と役割			
3・4	毛髪化学 2	⑤コルテックスの構造と役割 ⑥間充物質の働き ⑦メデュラの構造と役割			
5・6	毛髪のカウンセリング	①毛髪の見極め方 ②くせ毛やダメージについて ③毛髪 の健康状態について			
7	ヘアケア剤	①界面活性剤について ②シャンプーとトリートメント剤について ③スタイリング剤とホームケアアドバイス			
8	検定対策	ヘアケアマイスタープライマリーコースを合格するために、 過去問題および予想問題を回答し合格点数をとるだけの知識 を修得する			
到達目標	ヘアケアマイスターブックブックを使用し、3章までの知識を修得する				
評価方法	ヘアケアマイスタープライマリーコースを合格する				
テキスト	ヘアケアマイスターブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科		担当教員	阿見、高橋、中田、深井		
科目名	高度総合美容技術実習		学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	120
教育目標・ ねらい	美容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。					
授業回	学習内容					備 考
1～14	サロンスタイル 展開図（ロング）	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ロングスタイルを作成するための技術を習得 する。				24時間
15～20	サロンスタイル 展開図（ミディアム）	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ミディアムスタイルを作成するための技術を 習得する。				16
21～25	サロンスタイル 展開図（ショート）	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ショートスタイルを作成するための技術を習 得する。				16
26～40	クリエイティブ スタイル展開図① （レイヤー）	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、クリエイティブなレイヤーヘアスタイルを作 成するための技術を習得する。				24
41～43	クリエイティブ スタイル展開図② （グラデーション）	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、クリエイティブなグラデーションヘアスタイ ルを作成するための技術を習得する。				8
44～51	クリエイティブ スタイル展開図③ （フリースタイル）	全てのカットならびにブロー技術を用いて自由な表現のヘアスタイ ルを作成する。				12
52・53	撮影	自身の作品を記録するために必要な撮影技術を学ぶ。				8
54～60	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）の サポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験 する。				12
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタ イルをカタチにする技術を習得する。					
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験す ることができない					
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、基 礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う					